

114
A3420



御布多案

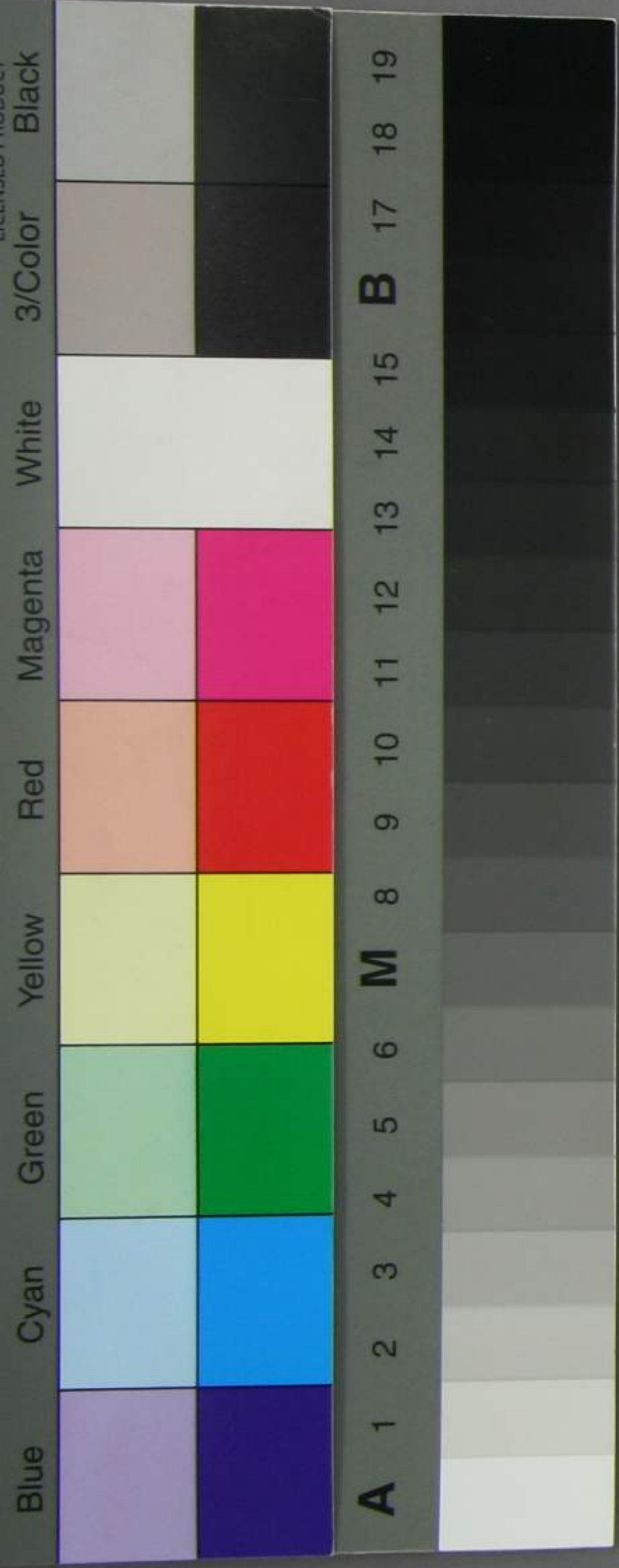
候 啓

全借債借利子に倣裁判上ニ於テ
左ニ述ビ也此乃身取テ判公限以下
ノ割居ハ地方ノ通商ノリ也同業ニ于テ
ノ定メテ有テ及布有テ人上目付有テ
テ有テ人取テ多取有テ人取

明治

大正十一年四月
贈月

1033



但裁判所あり之地方ハ予中ニ在ル
裁判所ハモテ直ニ申ス

明治十二年十二月 大政大臣

第一條

裁判上ニ於テ一ケ年キ前ハ或除ヨリ多カラ
せん判名トモ申ス事

第二條

裁判上ニ於テ利息ニ利息ヲ加フハ利息
ヲ拂ハスシテ十二ケ月ヲ越スハ時ニ限
ルキ事

第三條

五辨取限リ過ルル時ハ裁判所

刑

金ヲ可出出ノ勢如ハ之コソ裁制セシ
事

明治八年三月

おアソナード氏質問

仙國利息制限ノ原由

泰西諸國中年

千四百五年マテハ天主

教ヲ有ルニ國々ニテハ利息ヲ付ケテ

金ヲ借スルヲ禁セタリ

千七百九十二年仙國革命後

利息ヲ付ケテ金ヲ借スルノ自由

ヲ許シタリ

千八百七十年第一世ナポレオン帝

國ノ時ニ當リテ利息ノ自由ヲ許ス

ニ於テハ千七百九十二年

禁シサレ禁害ヲ

生るゝのヲ忘レテ制限ヲ立テたり
即チ民法第百五十分商事ハ六分ト
定メたり

然レ此制限ヲ越スルキハ負債
ノ罪ト為シテ訴ハルルコト定まり

利息ニ制限ナキトキハ債主ノ迷惑ト
ナルコト防キ且ツ貸主ノ負債ヲ防キ

タルコトナリ 犯者ハ六ヶ月以内ノ禁烟ト罰金トナリ
併科ス 現地仙國ノ處分ナリ

民法第百五十四條利息限ノ息限ヲ
拂フルキノ義務ヲ生スルハ一年以上ノ

息銀ヲ拂ハサル時ニ限ル可シヤリ

